

6 さあ、はじめよう!!



ここでは、本書の使い方を簡単に説明します。本書の構成は次のようになっています。

- 単発講座 → 公民館等で実施される120分～180分のプログラムです。
- 連続講座 → 7回シリーズで実施される講座のプログラムです。
- アクティビティ → 講座中で短時間に実施される活動です。

連続講座 講座全体のプログラム

II (2) 高齢化に関する学習をおとしたプログラム (連続講座)

テーマ/高齢者問題をおとしたプログラム【連続講座】

(3) 「さあ始めましょう! ○○才の手習い」(7回連続講座)

参加対象：おおむね65才以上の高齢者(5～6回は、小学校3年生と、その保護者)
 募集人員：30～40名(5～6回の現地学習の輸送方法により調整する)
 会場：公民館等、地域の社会教育施設、郷土資料館等、地域の文化施設、学校等

養われる地域参画力

- 自分だけが一方的に話さず、相手の話にしっかり耳を傾けられること⑦
- 近所の住民とつきあったり、地域の子どもたちに声をかけたりすること②
- 自らの知識や経験などを地域のために生かそうとすること④

講座全体のねらいと流れ

高齢者が、①活動そのものの楽しさ、②仲間がいる楽しさ、③周囲から評価がある楽しさを感じながら、生きがいを持って学習する機会を提供する。また、講座での学習成果や高齢者が持つ豊かな人生経験、知識を、子どもとの世代間交流をおとして、地域の中に生かしていく素地をつくる。

回	テーマ	学習内容	区分
1	高齢社会ってなあに？	開講式 講話 「高齢社会の話題と展望・ライフプランの必要性」自己紹介	参画 知識
2	私の健康ライフ	選択実技① だれでもできる健康体操	参画 知識
3	私のマネーライフ	選択実技② だれでもつくれる健康料理	参画 知識
4	私の生き生き 学びライフ	選択実技③ だれでもつくれる健康料理	参画 知識
5	講べよう① むかしのからし 今のくらし	ワークショップ 「私の生き生き学びライフ」 ～いつまでも生きがいを持って自分らしく～	参画 技術
6	講べよう② 古い道具しらべ	選択講話① かしい消費生活	参画 知識
7	今、必要とされている 地域の力	選択講話② ゆとりある暮らしとお金	参画 知識

連続講座全体をおしてのねらいが書いてあります。

それぞれの回のテーマと学習内容が書かれています。講座全体の流れをつかんでください。

講座全体をおして養われる地域参画力が書いてあります。また、養われる地域参画力の区分の度合いがグラフで表現されています。

プログラム中に示した「地域参画力」

① みんなで協力して地域をより良くしようとする事	参画 意欲
② 近所の住民とつきあったり、地域の子どもたちに声をかけたりすること	
③ 地域を回るなどして、地域の課題や長所を発見しようとする事	
④ 自らの知識や経験などを地域のために生かそうとする事	
⑤ 地域に関する情報などを地域内外に発信しようとする事	参画 技術
⑥ 自分の肩書きや経歴などにこだわりすぎない柔軟性があること	
⑦ 自分だけが一方的に話さず、相手の話にしっかり耳を傾けられること	
⑧ 人前で上手に話したり、話し合いをうまくまとめたりなどすること	
⑨ 文章を書いたり絵を描いたりなどして自分の考えを相手に伝えること	参画 知識
⑩ メールやインターネットなどを用いて連絡をとったりすること	
⑪ 地域が抱えている課題に関する情報・知識を持っていること	
⑫ 地域の文化や歴史および伝統行事などに関する情報・知識を持っていること	
⑬ 地域の行政(施策や施設、公民館事業など)に関する情報を持っていること	
⑭ 地域で活動している人や団体・組織などに関する情報を持っていること	
⑮ 一般教養及び専門知識(法律・経理など)を持っていること	

「地域参画力」については6ページで説明されていますが、プログラムではさらに細かく15項目で整理しました。

連続講座・単発講座 1日のプログラム

II (1) 情報化問題をおとしたプログラム (単発講座)

テーマ/情報化 携帯電話と子どもたち

(5) 「携帯電話、本当に必要ですか？」
～保護者や子どもたちに提案しよう～

参加対象：青少年の健全育成に関心のある住民 募集人員：30名程度
会場：町公民館視聴覚室

150分

養われる地域参画力

- 地域の子供たちに声をかけたりすること ②
- 地域に関する情報などを地域内外に発信しようとする ③
- 地域で活動している人や団体・組織などに関する情報を持っていること ④

講座全体のねらいと流れ

携帯電話の機能を理解するとともに、地域の保護者や子どもたちに「携帯電話」に関していくつかの提案をすることができると期待される。

アクティビティ① 携帯電話3つのコーナー	【15分】
アクティビティ② 携帯電話の機能を理解しよう	【85分】
アクティビティ③ もう一度、携帯電話3つのコーナー	【10分】
アクティビティ④ 提案書をつくらう	【40分】

それぞれのアクティビティのねらいを示しています。

それぞれのアクティビティの目安時間です。

アクティビティのねらいを示しています。

アクティビティに必要な準備物を示しています。

アクティビティのすすめ方を示しています。

学習支援者として必要な視点や、留意点を示しています。

準備物 3つのコーナーのカード

ねらい 中学生の携帯電話の所持について、いろいろな考えがあることがわかる。

アドバイス 深く考えず、思いつたまま移動するように伝えましょう。

アドバイス 異なった考えの人がグループを組むことで、いろいろな考え方にふれることができるようにしましょう。

● 本書を参考にしたプログラム作成の手順

本書に掲載したものはあくまでプログラム例であり、すべてこのプログラムのとおり
に実施しなければならないというものではありません。地域の実情や参加者の状況に
応じて、工夫しながら活用してください。以下に、プログラムの作成手順の例を示します。

